



今井館ニュース

Imaikan News

第 63 号

2025 年 11 月 30 日発行

水戸無教会と共に 50 年

星野 光利



『水戸無教会』創刊号と『私の信仰』

私は大学卒業以来、50 年にわたって水戸無教会聖書集会と共に信仰生活を送ってきた。その中で体験した水戸の聖書集会の特徴とも呼べることについて述べさせていただきたい。

70 年ほど前、初期の水戸無教会の集会に半田梅雄さんという方がおられた。半田さんはその特徴ある信仰を通して、以後の集会の核になるような記録を残してくれた。半田さんの歩み無しには水戸の地で無教会の集会は生まれ育たなかつたであろう。その文面には、水戸の土地柄と内村鑑三の残してくれた無教会信仰がうまく融合して生まれたことが書かれている。

以下の引用文中に、半田さんの書き残された集会誕生の顛末が書かれている。

「一昨年十二月鈴木俊郎先生をお迎えしてから昨一九五四年に於ける福音の水戸市攻撃は凄まじいものがあった。黒崎幸吉、矢内原忠雄、斎藤茂の諸先生の相次いでの来水、間接的ではあるが塙本虎二先生も之に参加せられて、松本兄*の表現を借りれば、正に水戸城の石垣は崩されたのである。

一方には水戸学に基礎を置く伝統的国粹主義、他方には零細な商業都市として根深い実利主義、それらに

加えて敗戦後の退廃的風潮と水戸人の性格故に激烈なソシアリズム的傾向等頗る複雑な思想的背景を持った水戸市、而してカトリックとプロテスタント諸教派の教会も決して少ないのである水戸市。

ここに神は福音のみを武器とする新しいそして最後的攻略を開始されたのである。これを用いるものは無名の一公務員、一商人、一農民に過ぎない。その声は甚だ低い。

然し思い見よ！ ガリラヤ湖畔に於けるイエスの伝道の最初の弟子数人は實に一漁師の息子たちに過ぎなかつたことを!! 社会的身分、学問の多寡が福音を決定しない。進めるも退くも神御自身の意による。(以下略)

(『水戸無教会』創刊号所収「編集後記」1955 年 3 月)

また、1983 年の半田さんの『小さき十字架』には無教会信仰が満ちている。その中から次の文を示したい。

「“幸いだ、貧しい人たち” ああ幸いだ、神に寄りすがる “貧しい人たち” 天の国はその人たちのものとなるのだから。(マタイ五 3 塙本訳) (中略) この言葉の一番大切なところは、貧しい故に、貧しくされたからこそ、神に寄りすがる心を与えられたこと」(156 頁) とある。

幸いにも水戸の集会では、このようなキリスト教信仰を受け継いで長く集会を守ってきた。内村が私たちに伝えてくれた無教会信仰を、ただ集会の中だけではなく、深く学び理解しつつ生きて、自分の周囲に広め生かして行きたいと集会員一同は願っている。

(* 松本兄とは、初代の水戸無教会会員の松本文助氏である)。

(ほしの みつとし 水戸無教会聖書集会)

目次

表紙・巻頭言

目次・内村鑑三の言葉

表紙について・発行趣旨	2	学校・学寮だより	11
「無教会全国集会2025」報告	3	各種行事のご案内	14
第46回『内村鑑三研究会』報告	6	各地からの報告・定期集会・特別集会のお知らせ	15
御言葉に生かされて—無教会の信仰と桐生の歩み	8	事務局便り	19
逆井ダンテ神曲勉強会	10	維持会員募集のお知らせ・編集後記	20

内村鑑三の言葉

「戦争の止む時」

エルサレムは何處に在ても可いのである、現今の東京でも倫敦でも可いのである（略）預言者の言は單に地理学的に解釈しては解らない、心靈的に解釈すべきである。

選者注：『聖書之研究』174号（1915年1月10日）、
『内村鑑三全集』第21巻、175頁

乳と蜜の流れる約束の地カナン、その旧約の言葉に反し、パレスチナにはどれほどの涙が流れしたことか。戦争の新世紀、ガザでは厖大な人命が失われ、戦争の止む時はいまだ遠い。非戦論者・内村は、第一次世界大戦下、イザヤ書の剣を鋤に、鎗を鎌に打ちかへんなど、預言者の言葉を伝えた。

2023年にガザへの空爆で死んだパレスチナの詩人は、詩「If I must die」に、こう書き遺した。

「もし、私が死ななければならないなら、あなたは生きづけなければならない、私の物語を語り継ぐために」と。
真の約束の地は、何処に。

（選：NPO法人今井館教友会監事 小林孝吉）

○表紙について

本号の巻頭言は、星野光利さんが、70年の歴史を持つ水戸無教会聖書集会誕生の経緯についてお書き下さいました。個性豊かな無教会第2世代の先生方が連携して、小さく貧しい平信徒集会の土台作りに働かれた様子は、無教会運動が想像以上に愛のネットワークの性格を持つものでもあることを教えられます。私たちはまだまだ地方の集会の歴史から学ぶことが多いように思います。（CY）



『今井館ニュース』発行趣旨

NPO法人今井館教友会は、キリスト教の精神に基づいて、今井館を維持・管理・運営し、内村鑑三（無教会の提唱者）及び彼につらなる者たちの広範かつ多面的な思想と活動を自ら調査・研究するとともに、他の個人と団体による調査・研究をも奨励・支援し、それら自他の調査・研究成果の社会一般への普及に努めて、正義と隣人愛を基調とする平和的な社会の形成と発展に寄与することを目的とする（定款第3条）。その目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として今井館ニュース発行を通じ「内村鑑三及び彼に連なる人々の思想と活動を調査・研究・発表する事業」を行うものとする（定款第5条3項）。

「無教会全国集会 2025」報告

無教会全国集会準備委員会



11月2日の集会での集合写真

今年のテーマは「真理への道——破局の中の希望」であった。新型コロナ以来、一日開催としていたが、今回は以前と同様、二日間の開催にした。参加者相互のよりよいコミュニケーションを踏まえ、オンラインは使用せず、会場参加のみとした。参加者は 66 名。切実なテーマであるにもかかわらず、各登壇者の講演は充実しており、全体討論、分科会で話し合いが豊かに持たれ、実り多い全国集会であった。各講演など詳しい内容は、来年 3 月頃に出来上がる『無教会全国集会 2025 記録集』をお読みいただきたい。

1. 主題講演「真理への道——ただし破局を通して」

福嶋 揚

「真理」という言葉は、哲学的には事物と主体の一致、神学的には神人の合一、あるいは「神の国」の到来などと言いかえられると思う。それではいったいなぜ、破局を通らなければ真理、善き世界、あるいは「神の国」に到達できないのであろうか。

ここで「破局」が意味する内容を具体的に、貧困や飢餓、生態系の破壊、世界戦争といった複合的な災禍と定めておくことにする。このままいけば 2030 年代には——あとわずか五年後に——多くの日本国民が飢餓に陥る事態に陥ることであろう。

いったい何が私たちの世界に破局をもたらすのか。それを突き詰めれば、経済成長を国是とする国家というシステムだと私は考える。資本主義は、経済活動という表層から隠されたところでその土台

そのものを食い尽くそうとする「制度化された狂乱状態」である。

それゆえに私は資本主義そのものを揚棄しなければならないという立場に立つ。そして、そのような資本主義を克服する聖書的理念は「受けるよりも与える」愛、すなわち搾取と略奪から贈与と互恵への転換であると思う。

聖書の贈与と互恵の原理は、具体的に二つの形をとることができる。一つは脱成長。脱成長とは、資本蓄積を目的とした商品生産よりも、「社会的、政治的、生態学的再生産」を最優先することである。もう一つは「債務の帳消し」。金融資本は、債務を梃にして増殖し続ける。債務奴隸からの解放こそ、罪の赦しの福音の現代的な適用である。

そしてこのような方向へと人類を転換させるものこそが、「破局」であると思う。

2. 聖書講話「真理に至る道などない、真理こそが道である：キリストの痕跡をたどる」

中村 頌

真理という意味を持つギリシャ語の原義は「覆いを取り除けられること」であるという。その意味で、ギリシャ文化圏の真理觀は「隠されていたものが明らかになること」であり、そこには探究の果てに真理へと至るイメージが内包されている。真理とはそこで、客観的・論理的・普遍的なものとしてイメージされる。しかし新約聖書ギリシャ語の語彙の言語的前提となるヘブライ語においては、事情が大きく異なる。真理とはまず第一に「信頼ができる」という意味される、神との関係に関わる語である。そこでの真理とは、抽象的な論理や概念とは区別される、忠実さや真実さといった具体的な存在のあり方に現れる真^{まこと}を指し、聖書はこの言葉で神の変わらない誠実さを言い表す（そしてまたそうした神の真実に対する人間の信仰もまた、この概念と語源を一にしているという）。このことから、むしろ聖書的理解に立つのであれば、真理（真実）とは遠く道の先にあるものではなく、むしろ私たちが歩む日常（道）のただなかにあるものだと言えるのではないだろうか。そしてそれは、「私が道であり真理であり命である」という聖句にも通じる理解である（ヨハネ14:6）。

3. 特別講演「破局と救済——再臨の風景」

小林 孝吉

私は20代の初め、だれもが通るむなしさのなかで、滝沢神学と椎名文学と一人向き合った。私は「3.11」の2カ月後、被災地を訪れる機会があった。あの2万人近い津波の死者たちは一瞬にしてこの世を去った。もう二度と死者たちには会うことができない。未来社会への希望はどこにあるのだろうか。その頃に私は、内村鑑三と無教会信仰、その究極にある再臨信仰と出会った。内村の靈的な言葉は、私の存在の奥深くまで届いた。

『内村鑑三 再臨の風景』を書き終えて、こう想う。神の右に坐する「再臨のキリスト」＝「Sache」（原事実）の「Zeichen」（象徴）こそ、「とき」をつらぬく、あるいは「とき」とともにある過去・現在・未来「完了進行形」としての「^{きた}臨りつつあるイエス」ではないか。それは聖書のイエスとも重なり合う。さらに、「再臨」は、滝沢神学における「第一義のインマヌエル」であり、「再臨信仰」はその生起である「第二義のインマヌエル」^{アナロジカル}と類比的にいうことができるであろう。同時に、終末論は・再臨論であり、終末の時は・太初の時でもある。インマヌエルも再臨も、ともに人が罪から新生する絶対無条件の万人救済論である、と。

4. 発題

① 「フクシマのある国で」

近藤 風人

福島第一原子力発電所事故から15年の時が経とうとしている。震災は、私たちに大きな痛みを伴って教訓を残したはずだと思っていた。しかし、現実は全くそうではない。むしろ、教訓などなかったかのように、再び原発に回帰する道を選んでいる。「原子力緊急事態宣言」が解除されてないことが示すように、原発事故は終わっていない。その事実を、ほとんどの人が知らないでいる。

事故当時、幼くて何も分からなかった私も、大学生になった。記憶の中の点と点が結ばれ線になった。そして、ようやく、私が育ったフクシマという場所は「何かがおかしい」ことが分かつてきた。原発事故を語れる中で、最も若い世代である私が、「大人」と「子ども」の間で感じていること。最後に、私の夢について語りたい。

② 「現代におけるドストエフスキイ文学の意味：破局の時代に響く希望の言葉」

千葉 雄

ドストエフスキイは、政治犯として死刑宣告を受

けて流刑地シベリアでの過酷な強制労働に従事、亡くなった兄の借金と家族の扶養を抱え、自分の妻を病で亡くし、政治的な理由で自身の雑誌が出版停止になるなど、破局としか言いようのない数々の出来事に見舞われた。そのような経験を経て彼は『カラマーゾフの兄弟』の中で、破局を迎えた人間の心の中に神が真理を照らし、精神の甦りを経験し、感謝と喜びを持った愛の人間と変わるもの語を描いている。私たちは、嘘や不正や詭弁が賞賛を集め、生きる意味や居場所を見失い、破局とも言える時代を生きている。ドストエフスキイはこのような末期的な状況を予見し、現代にも通ずる個人や社会の破局を小説や評論を通して描いている。彼の人生や執筆から、革命や暴力に頼らず、神の愛と正義を内包する真理の力に頼った自由な愛の実践こそが社会の不正義を変革する力であり、私たちは一粒の麦としての種をそれぞれの持ち場で広げていく実践こそが大切である。

③「ウクライナ戦争の完全な終焉を祈る」

安達 正敏

現在、知的障害者ホームでパート勤務をしているが、かつては陸上自衛隊第6師団衛生隊治療中隊に勤務しており、その時の精神教育は反ソ連であった。その後、独立学園で準職員として勤務した。鈴木彌美先生の下で、キリスト教の基礎を学んだ。

1970年に高橋先生の聖書講話を聴いた際に、ソルジェニーツィンについての話を聞き、ロシアに興味を持ち、それからロシアの2家族と交流を持ち続け、7回ほどロシアを訪問し、30年近くロシアを見てきている。今回は、ロシアの視点でウクライナ戦争を語らせて頂きたい。

「ウクライナの戦争の原因」は、①アメリカによるウクライナのNATO化の恐れへのロシア側の身の凍るような不安感 ②ウクライナ政権による、ロシア語話者たちへの民族浄化的軍事弾圧。「戦争の

目的」は、①この戦争はロシアと米英NATOとの戦争 ②プーチン大統領の抹殺が目的（プーチン大統領を排除し、ロシアのプーチン体制を解体すること）。不安感の強いプーチン大統領にとってNATO軍がロシア国境に迫り、ミサイル基地を作ることは耐えられない。もしアメリカとメキシコ国境にロシア軍が迫り、ミサイル基地を作ったら、アメリカはロシアと同じことをするだろう。

5. 音楽の時間

演奏者：上村 篤子 土屋 真穂

今年は新しい試みとして、2日目の午後に上村篤子氏のバイオリンと土屋真穂氏のリードオルガンとピアノによる、賛美を中心とした「音楽の時間」を持った。全国集会のテーマ「真理への道」に従つて“真理”をキーワードとした曲と、無教会全国集会が教会暦の「死者の日」（日本でいうお彼岸）であったのでG.フォーレのRequiemを演奏した。

バイオリンとリードオルガンで演奏したJ.S.Bach「目覚めよと呼ばわる声」の元になったコラールは、ペストによって街の人口の30%の人が亡くなつた、まさにこの世の地獄、破局とも思える地域で牧師をしていたF・ニコライが作詞作曲をした。マタイ25章「十人の乙女」から引用した「花婿が到来するから目を覚ましていなさい」という歌詞は、死の恐怖に怯える市民を大いに励ましたそうである。その他、3曲の讃美歌メドレー、土屋真穂作曲のMeditation-Requiem aeternam-等を演奏し、穏やかで静かな祈りに満ちた時間となった。今井館には2台のリードオルガンがあるが、政池仁氏と榎本様子氏からの寄贈であることが全国集会を終えた数日後に分かった。どちらも20世紀初頭の楽器だが、とても美しく艶やかな音色を今井館聖書講堂に響かせてくれた。

（文責：小館 美彦）

第46回内村鑑三研究会報告

2025年9月15日(月)(午後2時から4時30分)に今井館聖書講堂にて、第46回内村鑑三研究会が、対面とZoomで開催されました。発表者の森山浩二氏と千葉眞氏の報告要旨は以下の通りです。

「『韓国無教会双書(全9巻・別巻1)』(2024年)刊行について」

森山 浩二

今年は、我が国にとって、「敗戦」(朝鮮・韓国にとって「解放」)から80周年、日韓国交回復60年の記念の年、『韓国無教会双書』(全9巻、別巻1)の刊行について報告の機会を与えて下さり、感謝드립니다。

今から約100年前、大日本帝国の統治下にあった朝鮮人留学生たちの中で内村鑑三の今井館聖書講堂での聖書講筵に列した6人の同志により1927年7月『聖書朝鮮』という聖書雑誌を刊行、朝鮮における無教会が始まった。最後まで無教会の信仰に立って生涯を送った金教臣と宋斗用の文章を訳出して出版されたのが、『韓国無教会双書』10冊(金教臣の『信仰と人生』上・下、『山上の垂訓研究』、『日記』4冊、宋斗用『信仰文集』上・下と別巻1「金教臣追憶集」)です。

まず、内村鑑三と朝鮮人との関係を内村の日記から説明。その中の二人、金教臣と宋斗用の文章と履歴紹介。また『韓国無教会双書』出版の韓国側の責任者であり、戦後の韓国無教会の中心であった盧平久についても紹介しました。

発表のメインである『韓国無教会双書』出版に至る経緯について、1980年代末に始まり、2024年1月に出版されるまで何故30数年間もかかったかについて概略を述べました。内村鑑三に連なる日韓の無教会のメンバーによる共同の出版であるとは言え、次々と難題に遭遇しました。特に、2023年11月、キリスト教図書出版社の岡



質疑応答タイムで、『韓国無教会双書』出版について語る皓星社の藤巻修一氏(左)。後方は、発表者の森山浩二氏(左)と千葉眞氏。

野行雄氏が3冊出版した途中で亡くなり、万事休すと思われましたが、岡野氏との生前の約束の下に、皓星社の藤巻修一氏が引き継いで下さり出版できました。

『韓国無教会双書』の特色とその意義について。なによりも内村に連なる朝鮮・韓国の無教会キリスト者の信仰の戦いの言葉を日本語で読めるという点。特に最近、韓国における金教臣について関心が高まり、2014年11月に「金教臣先生記念事業会」が設立され、毎年「学術シンポジウム」を開催、『聖書朝鮮』(復刻版)を出版し、信仰を学び研究もおこなわれている。そして、時代と国籍は違え、『双書』を通して、二人の信仰者としての生き方、信仰を学ぶ事ができます。また、最近、日韓の“エゴ・ドキュメント”研究が進む中で、『日記』は戦前の日本統治下の朝鮮人キリスト者の貴重な歴史的資料として価値がある。

終わりに、長い時間がかかり、盧平久氏を始め出版を待っていてくださり天に帰られた方々にお詫びしたい。しかし、『韓国無教会双書』は日韓無教会の協働の実りであり、日本人キリスト者にとって朝鮮・韓国キリスト教理解の一助となるでしょう。

(もりやま こうじ 渋谷聖書集会)



「内村鑑三の「十字架教」——贖罪信仰とその特質」

千葉 眞

内村鑑三の回心（conversion）は、二つの異なった時期に札幌とアーマストにおいて起きたことが知られている。札幌での第一の回心は1877年に内村17歳の時に起きたが、八百万の神々への崇敬という日本古来の宗教心からキリスト教の一神教への回心だった。札幌農学校で1877年に体得した若き内村の唯一神信仰は、その後、それと対立し矛盾するものではないが、シーリー総長との出会いを通じて第二の回心とも呼ぶべき出来事によって1886年に贖罪信仰を体得した。

内村はキリストの贖罪の出来事にキリストの福音の基本と核心を見いだしたわけだが、その救済の出来事にあづかったキリスト信徒の側でもこの地上においてみずからの生き方においてこの出来事にあやかった贖罪的な生き方を求めていく半面があった。贖罪はこうして、この恩恵を受けた者にとっては「義の敢行」であり、「愛の実現」であるとされた。

さてこの贖罪に由来する犠牲の概念は内村においては自己犠牲という意味合いで使用されているが、彼はその法則性と意義とを彼の専門領域だった自然界のなかにも観察していた。さらに彼は、贖罪や犠牲や自己犠牲の法則性を人々

参加者からの質問に答える千葉眞氏。左は、森山浩二氏。

が作り上げ、織りなす歴史のなかにも確認していた節がある。しかし、内村の「非戦主義者の戦死」の論考は、彼の贖罪論の誤った適用例として理解されてきた。

内村の後半生の贖罪的終末論において、「十字架」と「復活」と「再臨」の出来事の統一的理解が示されている。内村の場合、バルトやモルトマンなど、20世紀西洋の神学者たちの議論を先取りするかのように、キリストの十字架、復活、再臨が一つ有機的に一体化された大きな救済の出来事の三つの局面として捉えられていた。そこには内村独自の先駆的な議論もみられたわけである。さらにキリストの再臨において「万物の復興」、「宇宙の完成」が起こり、被造物全体の救いが実現されると主張している。「人と天然とが共に救はれて」十字架の救済が完成されると主張している。晩年の再臨信仰の時期以降の内村において、贖罪的終末論の視座からなされた現世や自然や宇宙に対する積極的な献身と愛とが、理論的に、潜在的に可能となつた。だが、その十全な展開と明確化の作業は十分になされずに終わり、次の世代以降の課題となつたといえよう。

(ちば しん 『内村鑑三研究』編集委員・
国際基督教大学名誉教授)

御言葉に生かされて — 無教会の信仰と桐生の歩み

大川 義

その1 出会いと共に始まった歩み ——人と人、そして神との出会いの中で——

桐生聖書研究会の歩みは、今から百年以上前、群馬県桐生市に遡ります。

創設者である大川英三は、少年時代から英語の勉強のため、栃木県足利市小俣にあった小俣教会を訪れ、牧師夫妻に可愛がられました。14歳のころには、トマス・カーライルの『英雄崇拜論』(住谷天来訳)を繰り返し読み、思想への関心を深めしていました。

ちょうどその頃、桐生の街に「基督教講演会」のポスターが掲示されました。講師の名は住谷天来。大川は講演を聴きに出かけ、この出会いが彼の信仰の原点となります。その後、住谷は小俣教会にも説教をするため來たのでした。大川はその信仰と人格に深く惹かれ、1913年に洗礼を受けました。住谷を通して内村鑑三の信仰に触れ、『聖書之研究』を読み続ける地方会員となっていました。

一方、中村ゑいは新潟で女学校時代17歳で神に出会い、伝道に心を燃やし、宣教師に相談し横浜共立女子神学校に進みました。在学中から内村の思想に共鳴し、熱心に祈る人がありました。卒業後は学校に残って学生にオルガンを教えたり、丸山監獄で伝道をし、久保山の上にある孤児院にも子供達にお話をしに行きました。ある時、小俣教会に派遣されることになりました。大川はこの小俣教会で中村ゑいと出会うこととなりました。

大川が桐生の市日に織物を満載した荷車を引いている時、書物を並べる一軒の書店と出会います。棚にはダンテの『神曲』(山川丙三郎訳)が並び、主人の竹内寛次が青山学院出身のクリスチャンであることがわかりました。二人はすぐに意気投合し、「眞のキリスト教は内村鑑三の『聖書之研究』にある」という思いを共有します。



桐生聖書研究会のクリスマス会の記念撮影（昭和24年12月）。中央の赤ん坊は大川ゑいに抱かれる筆者。その右が日永ノブ、ゑいのすぐ後ろが大川英三、ノブの右が筆者の母大川栄子（ノブの次女）、その後ろが日永初太郎、2列目左が中嶋信生の父芳夫（日永ノブの長女満恵の夫）、その右が筆者の父大川士郎（大川英三の長男）。

竹内は自らの書店「ミスズヤ」に『聖書之研究』を並べ、仲間が集い、聖書研究会を始めました。桐生聖書研究会は、まさにこの書店の二階からスタートしたのです。中村ゑい伝道師も加わり、大川、中村、竹内の三人を中心には発展していきました。やがて大川（26歳）と中村（34歳）は住谷天来の司式で結婚し、教会を離れ、無教会の信仰の道を歩み始めます。会場も手狭であったために、やがて「桐生俱楽部」に会場を移します。この桐生俱楽部が長い間、聖書研究会の拠点となっていました。この「桐生俱楽部」では石原兵永先生、矢内原忠雄先生、政池仁先生などを招いて市民に開かれた講演会なども催しました。

そして、聖書研究会の場所は日永家に移り、日永夫妻が召された後はその娘夫婦の中嶋の家となりました。この場所を桐生聖書研究会は会場として50年近く使わせていただきました。

その2 共に歩み、信仰をつなぐ ——受け継がれる御言葉と祈りの営み——

聖書研究会の歩みを支え、さらに広げていったのが日永ノブとその一家でした。ノブは内村鑑三の長女で、「父訓」で知られる人です。父内村とは17歳になるまで会うことがなく、初めて対面しました。それ以降、内村のもとをたびたび訪ねるようになります。

ノブは群馬で教員として働き、同僚だった日永初太郎と内村の許可を得て結婚します。結婚式は柏木の講堂で鑑三司式のもとに行われました。初太郎も『聖書之研究』の購読者でした。群馬県安中では、新島襄の伝道によって建てられた安中教会の近くに住み、夫婦で日曜学校を開いて子どもたちに聖書を伝える働きをしていました。再臨運動の頃には、内村から交通費が送られ、東京の講演会にしばしば足を運んだといいます。

その後、日永夫妻は桐生に移り住み、初太郎は小学校の校長として赴任します。そして発足間もなくの桐生聖書研究会に加わりました。ノブは安中での日曜学校の経験を生かし、会員の子どもたちへの伝道を始めます。自宅を開放し、担当を分担した日曜学校の働きは、地域で大きな役割を果たしました。この家屋は、内村が召される前に「この働きを続けるように」と資金を託して建てられたもので、長年、聖書研究会と日曜学校の拠点となりました。

桐生聖書研究会はその後、「桐生俱楽部」で約40年にわたり続けられました。戦争中、日曜学校で育った青年たちは学徒動員で戦地に赴きましたが、信仰は絶えることなく、戦後は復員した人々が交代で聖書講義を担当し、次の世代へと受け継がれていきます。

私自身も40代からこの会に加わり、いまでは創設から三代目の世代にあたります。即ち私は大川英三の孫でもあり、日永ノブの孫でもあるからです。桐生聖書研究会は、会員数の拡大を目指す組織ではありません。神の御前に一人立ち、御言葉を中心に歩む信仰共同体として、静かに、しかし

力強く続いてきました。

現在、私は聖書講義を担当しています。日永ノブの孫である中嶋浩一さん、中嶋信生さんも時折、東京から参加してくださっています。信仰は血縁にとどまらず、世代を超えて受け継がれています。私の子どもも、そして更に孫たちにも御言葉が届いていることを心から感謝しています。娘やその従妹同士で神様の話をしていることの報告を聞くことは本当にうれしいことです。それぞれが環境の違いがあるにしても祈りを共にしていることは神様の導きと信じています。私自身も群馬県にありますキリスト教主義の共愛学園（子ども園、小学校、中学高校、大学）学園長として、児童、生徒、学生達にキリストを伝える仕事に就いています。これも主の恵と導きによるものです。



数年前の集会で讃美歌を歌う桐生聖書研究会の会員たち

「神の前に一人静まる信仰」——これは内村鑑三が私たちに残したかけがえのない遺産です。桐生聖書研究会もまた、その遺産の小さな一部として、神と人との出会いによって生かされ、育まれてきました。

これまでのいくつもの出会いはすべて神様の計画によって用意されていたことが分かります。今後も希望の計画が私たちには与えられていると信じております。

(おおかわ ただし 桐生聖書研究会代表
共愛学園学園長)

逆井ダンテ神曲勉強会

草薙 ミサ子



フィレンツェのダンテ像
(1919年8月草薙貴子氏撮影)

卒論はルターの宗教改革、その後もキリスト教の歴史に興味を持ち続けていました。そんな時出会ったのがこの原さんの訳でした。歴史の中にしっかりと位置付けられたこの訳は画期的で、この訳で『神曲』を学びたいと思いました。すぐに逆井聖書集会(西永頌主宰)の仲間に呼びかけ、『神曲』の勉強会が始まりました。2016年10月のことです。1997年から私は逆井聖書集会に参加しており、幸せなことに多くの方々の協力のおかげで勉強会が実現できました。

メンバーは集会の仲間7名。毎月第一土曜日に西永先生宅で、原訳の『神曲地獄編』と矢内原忠雄著『土曜学校講義』第3巻地獄編(みすず書房)を併せて読む、ということになりました。矢内原先生は『土曜学校講義』のなかで、「『神曲』の読み方に正解はありません。それぞれの人が自分の人生をかけて正直に読めばいいのです」と教えてくださっています。ただ一つ想定外のことがありました。それは西永先生による第1回勉強会が終了した後に、先生は「次回の当番は草薙さん」と言わされたのです。全く予想していなかったので

逆井(さかさい)ダンテ神曲勉強会はある出会いから始まりました。その出会いとは2016年に教文館で原基晶訳の『ダンテ神曲地獄編』(講談社学術文庫)を手に取つたことでした。

私は、学生時代に歴史を学び、

驚き、大変なことになったと思いました。講義は各自持ち回りとなり、メンバーは必死に勉強することになったのです。準備は大変ですが、当番各自の個性が發揮され、今では楽しい時間になっています。

ダンテは詩人で政治家でもありますが、神学、哲学、歴史、ギリシャ神話、天文学、数学等にも造詣が深く、神曲にはそれらの知識が複雑に入り組み、理解できないことがたくさんあります。そんな時、矢内原先生の信仰に基づいた解説にどれだけ助けられたことでしょうか。そのおかげでコロナ禍にもZoomで勉強会を継続でき、現在は天国編の17歌まで進んでいます。

2019年9月には、新メンバー2名を加えた総勢9名で、ダンテの故郷であるイタリアのフィレンツェに1週間滞在し、彼の足跡を訪ねました。その中で忘れられないのが、現地フィレンツェでの聖日集会です。宿泊したホテルの一室でヨハネ福音書1章1-5節の聖書講義を受けました。その講義を聞きながら、私たちは神曲を学びつつ、同時に信仰をも学んでいたのだ、と気付きました。信仰とは知識ではなく、「神在り」で生きる生き方なのだと。集会でのお話にはいつもキリストの十字架があり、矢内原先生の解説には毎回ご自身の経験が語られていました。

『神曲』は13世紀から14世紀のフィレンツェ周辺の出来事が描かれています。自らの欲望のままに戦争を繰り返す教会や人間。現代においても同じことが繰り返されています。これが私たち人間の姿なのです。『神曲』にはこの困難な時代に生きる私たちに、解決の鍵を与えてくれているかもしれません。

(くさなぎ みさこ 逆井聖書集会)

学校・学寮だより

独立学園



10月23日熊に注意しながらキノコ狩り実施
(コーラスの風景)

本校では周囲の山の木々が、美しい色彩を放つ紅葉の秋を迎えてます。本校目の前にある「一本松」という山は、その面積の割には樹木の種類が多く、今ちょうどその葉の色が赤・緑・黄など言葉では表現できないほどの色彩変化をする中で山全体が美しさを放っています。昔ある教師が、クラス通信の名前に「雑木林」と名付けたことがあります。学園で学ぶ生徒一人一人も学びを経る中で、それぞれ個の色彩を出し始める時があります。変化しつつある生徒達が創り上げるコーラスや生活そのものが、今までに美しい「雑木林」と重なります。

全国的にニュースになっている熊のことに関するお問い合わせでも、本校は日々心配なことではあります。地元獣友会の方の協力をもらいながら安全を確保しつつ現在に至っております。歩けば、大きな木の葉が落下する時の音ぐらいしか聞こえないほどの静けさの中にありつつ、あらためてこの場において長きにわたり歴史が紡がれてきたことを思います。100歳まで書道を教えられた榎本楳子先生、音楽教育に生涯を捧げられた榎本華子先生、その一家が住んでいた望寮は老朽化のため数年前に解体されました。今はそこには草と花とベンチと生徒が探求授業で作ったシーソーが置かれているだけで

す。その向こうにはサルッパナというなじみの山が全山紅葉しつつ、じつとこちらを見つめています。その背後の飯豊山はすでに雪で真っ白です。変わりゆくもの、変わらないもの、そして今ここを生きて通り過ぎていく生徒達。天地の造り主を思わされる時です。

(校長 後藤 正寛)

愛真高校

9月27、28日は年間の最大行事である愛真アートフェスティバル (AAF) を行いました。発案された中から選ばれたテーマは「聴こえる」でした。発案者の生徒はテーマについて次のように記しています。「その声はあなたの苦しみだったし、わたしの怒りだったし、本当に知らない誰かの笑い声だったし、戦地で息たえようとしている人のため息だった。[...] AAFが終わったあと、私たちの苦しみ、生きづらさが変わってほしい。AAFが終わったあと、『私たちの未来には希望がある(エレミヤ31:17)』と胸を張って言いたい」。舞台やクラス劇を通して、「自分は生きていていいのか」「なぜ生かされているのか」という生徒の叫びのようなものを感じました。そしてそれらを包む「あなたは愛されている」「あなたを生きなさい」という温かい言葉に包まれた中での発表であったと感じました。多くの方のお祈りとお支えの中でAAFが守られたことを感謝いたします。



AAF プログラム表紙

10月29日には、「核のない世界を！」という題で、平田道正さんが特別授業をしてくださいました。9歳の時に広島で被爆し、57歳の時から証言活動を始めた方で、本校では8年前に被爆証言をしてくださいました。核の危険性が高まっている世界の現状を憂い、若者に未来を託したいとの思いで、89歳という高齢で本校に来ることも大変な中、東京からはるばる来校して授業をしてくださいました。授業後、お礼の合唱に2、3年生が「とむらいのあとは」を歌いました。昨年、今年と呉・大久野島平和学習——毒ガス製造など、加害の歴史に向き合わされる——で歌った歌です。指揮者をじっと見つめ、真剣な表情で歌う力一杯の歌声から、平田さんの思いに応えて、どのようなかたちで自分たちが平和を創ることに携わっていくことができるのか、そのための一歩を踏み出そうとしている決意が迫ってくるようでした。

(校長 栗栖 達郎)

愛農学園

9月22-23日、「日本キリスト教協議会、都市農村宣教委員会」が愛農学園で研修会を持ち、農場などで生徒と交流し、愛農学園の信仰的歩みについて校長の講演を聞きました。愛農学園は数的にクリスチャンは多くないが、聖書やキリスト教はバックグラウンドとして生徒の人間形成に影響を及ぼしていること、地球の平和を作るミッションやノアの方舟的にこの世の光、地の塩となる生き方が生徒に影響を及ぼしていることなどを述べました。しかしながら、愛農学園ではキリスト信仰に生きる職員が不足しています。読者のみなさん、どうぞ信仰者求道者スタッフを愛農学園職員に送ってください。またそのために祈ってください。

10月5-6日、ブータンからシェラブさんが来校されました。ブータンに私立の農業学校設立準備のため、愛農のキャンパスを見学し、校長と話を進めました。12月下旬に校長がブータンを訪れ、政府や支援団体への陳情、現地の視察と事前調査



愛農祭における大地讃頌の全校大合唱

を行う予定です。農業教育を通してブータンに福音の種がまかれ、神がブータン人の心を耕し、農を通して地球の平和と命の再生に捧げるブータン人の起こされることを祈っています。

(校長 村上 守行)

春風学寮

2025年9月2日から5日にかけて、福島へ研修旅行に行きました。初日には、津波被害に遭い、その被害の語り部となった方から、貴重な体験を聞きました。何よりも印象的だったのは、その方が「その時の記憶はほとんど残っていない」と話され、その時に何をしたかということは後で生き残った人たちの証言をつなぎ合わせてようやくわかったという話でした。結局その方は、津波が来た時には、ぎりぎりまで近所の人を助けまわっており、最後の最後に近所の人を見捨てて自分の命の安全を図ったということでした。それを聞いた寮生の一人が、「なぜ最後まで近所の人を助けなかったのですか。僕たちの寮はキリストを学ぶ寮なので、自分の身の安全を優先してしまうという話には何か疑問を感じてしまいます」と質問しました。この遠慮のない質問に、語り部の方は正面から答えてくださいました。「最後の最後に自分の命を優先したことは、神様のご意志にかなった正しいことであったかどうか確か信しているのです」と。この答えに私は涙が出ました。果たして寮生たちはどう思ったでしょうか。



福島研修旅行の記念写真

2日目以降には、東京電力の運営する「廃炉資料館」、福島県指定の公益財団法人が運営する「原子力災害伝承館」、民間の被災者達が運営する「俺たちの伝承館」、そして宝鏡寺内にある「伝言館」を見学してまわりました。驚くべきことに、前2者と後2者とでは主張が多くの点で真っ向から対立していました。こうした中で、寮生たちはどちらの主張にも流されまいと、慎重に展示を見学していました。おかげで何が真実かを見極める大変さと向き合った、貴重な研修旅行となりました。恐らくこうした学習こそこれから最も重要な教育方法の一つとなるでしょう。熱心に説明してくださった関係者の方々全員に心よりお礼申し上げます。

(寮長 小館 美彦)

登戸学寮

懐かしい秋が戻ってきました。「秋は暁々（りょうりょう）と空に鳴り 空は水色 鳥は飛び魂いななき 清浄の水こころに流れ こころ眼をあけ 童子となる」（高村光太郎 秋の祈り）。2025年夏を思う時、この空、風、光を慈します。おかわりありませんように。学寮では37人の共同生活が続いています。4年生はそれぞれ就職や大学院等進路がさだまりつつあり、また5人のクリスチャン留学生を迎えて刺激を受けつつ賑やかに過ごしています。

7月の筏大会では3チームとも力一杯漕ぎ抜き皆良い成績を収めることができ、トロフィーを持ち帰りました。共同体の醍醐味は同じ目標をめざし共に努力を重ねそして何等か一つのことを為し遂げたとき一人では決して味わえない喜びを分かち合い、共有することのうちに、新たな励ましと力を得ることにあります。それはかけがえのないものの分かち合いを実現し、共に生きることに向かわせるのであります。先人たちが福音の分かち合いで経験してきたことを少し追体験するような感覚をいただきます。



いざ出陣！

パウロは言います、「さて賜物には様々なものがある、しかし同じ靈がいます。仕えの職務には様々なものがある、しかし同じ主がいます。働きの内容は様々なものがあるが、同じ神がいまし、あらゆるものごとにおいてあらゆるものごとを働いていたまう。その靈の顯れは役立ちに向けて各人に与えられている。というのも或るひとには靈を介して知恵の言葉が、別のひとには同じ靈に即して認識の言葉が与えられている。[…] ちょうど身体は多くの部位を持つが一つであるように、そのようにキリストもありたまう」(1Cor.12:4-12)。

(寮長 千葉 恵)

「今井館文化講座 2025年度後期」ご案内

主 題 苦しみを生きる 未来への希望と共に
講 師 小林孝吉 文芸評論家、明治学院大学卒、博士（学術・九州大学）、今井館教友会監事、滝沢克己協会理事長
場 所 今井館教友会（東京都文京区本駒込6-11-15）2階「集会室2・3」

第1回日時 2026年1月31日（土）午前10時～11時半

演 題 内村鑑三の信仰宇宙——『内村鑑三のことば』

今井館で発行した『内村鑑三のことば』をもとに、内村鑑三の信仰宇宙と「非戦論」を生きたその生涯を考えます。

第2回日時 2026年2月21日（土）午前10時～11時半

演 題 ハン・ガンとアレクシエーヴィチの文学——愛といのちの物語

ノーベル文学賞を受賞した韓国とベラルーシの二人の女性作家の作品を通して、戦争や暴力の記憶から愛といのちの物語へ、その希望を伝える同時代の世界文学を見つめます。

主 催 今井館教友会 担当：上原和幸、三上由美子

参加費 各回 1,000円 当日会場でお支払いください。

申込方法 事前申し込みが必要です。申込用グーグルフォームのURLやQRコードは、本講座の案内を今井館教友会のHPに掲載しますので、ご参照下さい。第1回と第2回は別々にお申し込みください。

問合せ先 今井館 Tel.03-6277-5669（月・水・金） 上原、三上

内村鑑三記念キリスト教講演会

名古屋「内村鑑三記念キリスト教講演会」のご案内

日 時 2026年3月1日（日）午後1時30分～

場 所 名古屋市市政資料館（Tel:052-953-0051）

地下鉄名城線名古屋城駅（2番出口）から東へ歩いて約8分

講演者 杉山光太郎「おもさにきくオーケストラのなかにはたらく愛について」

西永 頌「預言者の苦難」

主 催 名古屋聖書研究会

会 費 1,000円（学生 500円）

大阪「内村鑑三記念キリスト教講演会」のご案内

日 時 2026年3月20日（休日・金）午後2時～

場 所 大阪クリスチャンセンター 2階 多目的ホール

講演者 清水 勝（高槻聖愛キリスト教会）「主に従う私の道」

中林憲一（テコア聖書集会）「内村鑑三に学んだキリスト教」

司 会 内坂 晃（聖天聖書集会）

主 催 京阪神聖研連合・内村鑑三記念キリスト教講演会打合会

会 費 1,000円（学生 500円）（終了後の感謝夕食会はありません）

問合せ先 津崎哲雄

東京「内村鑑三記念キリスト教講演会」のご案内

日 時 2026年3月22日（日）午後2時～

場 所 今井館聖書講堂（〒113-0021 東京都文京区本駒込6-11-15）

オンライン参加も可能

講演者 ゾンターク・ミラ「内村鑑三研究は（今）何のために役立つか」

萩野谷 興「一キリスト者弁護士の歩み」

司 会 森山浩二

主 催 内村鑑三記念キリスト教講演会運営委員会

会 費 1,000円（学生 500円）

問合せ先 今井館教友会気付 (小林) Tel・Fax 03-6277-5669 (月・水・金)

(宮崎) uchimurakinen-2025@yahoo.co.jp

『今井館ニュース』本号 (第63号) 同封のちらしをご参照ください。

「無教会研修所 聖書学習講座 2026年度」のご案内

全国の皆様に、最高の講師陣による聖書とキリスト教に関する聖書学習講座（2026年度）を、2026年4月に開講します。講座のカテゴリーと講師陣は以下の通りです。講座は月1回、年8回です。（通信講座は年18回）

旧約聖書	新約聖書	歴史・思想・文化	原典講読	語学・通信講座	ゼミ 内村鑑三を読もう
月本昭男 金井美彦	廣石 望 田中健三	福嶋 揚 川中子義勝	月本昭男 *1 吉田 忍 *2	宮崎修二 *3 吉田 忍 *4	宮崎文彦 鷺見誠一

*1 旧約聖書原典講読 *2 新約聖書原典講読 *3 ヘブライ語通信講座 *4 ギリシア語通信講座

2026年度各講座のテーマ・講義タイトルの詳細は随時、無教会研修所ホームページに掲載します。

インターネット配信（一部を除く）ですので、全国どこからでも受講可能です。

2026年度受講案内冊子をご希望の方は、下記メールにご請求ください。（2026年1月中旬以降郵送します）

講座受講申込期間 2026年1月中旬～3月20日

ホームページ <https://mukyokaikenshujo.com>

問合せ先メール seishokozu@mukyokaikenshujo.com

無教会研修所事務局

各地からの報告

■キリスト教独立伝道会

○第2回 みんなのバイブルキャンプ

2025年8月22日から24日にかけて2泊3日のバイブルキャンプが「東京 YMCA 山中湖センター」において開催されました。素晴らしい環境と好天候の中、3人の講師による聖書講話、初めての試みである「音楽礼拝」、子供たちが「来年も来る！」と言ってくれた諸々のプログラム。参加者は少数でしたが、恵まれた時を与えられました。

○堤道雄先生召天20周年記念講演会

2025年10月5日フォーラム南太田（横浜）で開かれました。有賀実男氏が「堤道雄先生」、多田義国氏が「教育と伝道と平和のために生きられた人」との演題で語られました。参加者は20名。堤先生との個人的出会い、関係、堤先生が力を入れられた働き、その人柄について話され、先生が語られた真理の言葉（神、キリストを伝える言葉）が紹介されました。

○第52回北海道瀬棚聖書集会（主催：瀬棚聖書集会、協賛：日本キリスト教団利別教会、後援：キリスト教独立伝道会）

日時：2025年11月26日（水）20:00～11月28日（金）

会場：今金利別教会、オンライン併用（グーグルミート）

テーマ：「信仰に導かれた女性たち」

講師：吉村孝雄、金鍾九牧師

■北陸

○金沢畠田聖書集会

10月19日（日）崎村恒夫はIテサロニケ4:13～5:4か

ら、空中再臨（携挙ともいう）について話した。携挙は艱難時代の最後にあるとか、真ん中にあるとか、何度も分けてある、とかという説がある。それらはすべて間違いであり、携挙は艱難時代の前にあり、それは、何時かは分からぬ。信者は艱難時代には経験しない。携挙はパウロによって示された。彼はコリント15:51～52で奥義として携挙・空中再臨について告げた。眠った人（教会時代に召された信者）は朽ちない体によみがえり、現在、生きている信者は栄光の姿に変えられる。こうして空中ですべての教会時代の信者はキリストにまみえ、永遠にキリストと共にいることになる、と語った。

場所：金沢勤労者プラザ（金沢市北安江3-2-20）

連絡先：山下士郎

■静岡

○第60回 静岡県下無教会合同集会

10月26日10時～13時45分まで、浜松、清水、そして山形県米沢から総勢23名の参加がありました。講話は浜松の武井陽一氏「幸いなるかな こころの貧しこそたち」、山形の助川暢氏「エクレシアの祝福と課題」。その後、自己紹介、講話感想を終えて、会食。会食時間は、互いの近況をお聞きしたため、目前の握り寿司、菓子・ミカンの美味に舌も滑らかとなり、食べながら、話しながらの忙しくも楽しい時間を共に過ごし、別れを惜しみつつ散会しました。（清水聖書集会 西澤正文記）

○文集『みぎわ』第65号 刊行のお知らせ

52名のきょうだいから投稿を頂きました。今年も紙上のエクレシアの場として、用いられますようにと願っています。290頁、1冊1,000円（+送料は実費）。購入希望者は武井陽一までお知らせ下さい。

■近畿

○234回関西合同聖書集会

2025年9月15日（月・休）エルおおさかにて中上幸三氏「雲南の地に遭わされて」（＊）、工藤新三氏「神、共にいます（出エジプト記33章）」（＊）を講師に、礼拝を行った。

○関西合同聖書集会共同墓地納骨式・墓前礼拝

2025年10月13日（月・休）13:00～30三笠靈苑（奈良墓地公園内）に30数名が集い、故竹中薰子氏（和歌山聖書集会）を納骨。式辞「荷を主にゆだねよ」（＊）と讃美・祈りをもって礼拝を行った。

*印は関西合同聖書集会報188号に掲載

○235回関西合同聖書集会

2025年11月3日（月・休）エルおおさかにて津崎哲雄氏「越後出身牧師と良寛」、田矢廣司氏「出エジプト記最終回」を講師に、礼拝を行った。

■中国

○岡山聖書集会

第33回愛農岡山聖書集会、11月16日（日）津山勤労者総合福祉センター、聖書講話：香西信（岡山聖書集会）

■九州

○福岡夏季聖書セミナー2025（Zoom同時配信）

8月2日（土）から3日（日）にかけてアクロス福岡で開催しました。友寄隆静氏（那覇聖書研究会=Zoom）の聖書講話（「生きて働く神」、「子供の祝福」）のほか、土屋聰・めぐみ夫妻（徳島聖書キリスト集会）と中川陽子姉（家の教会マンナミルトス（Zoom）による感謝を伺い、一同イエスの福音への感謝に満たされました。福岡聖書研究会主催、キリスト教独立伝道会後援で40人が集いました。

○福岡聖書研究会・特別集会（Zoom同時配信）

9月21日（日）に澤正幸氏（前福岡城南教会牧師）を迎えて「主イエスの終末についての教え」と題し、再臨を迎える迄の私たちは弟子の足を洗われたイエスに倣って生きるべきことを学びました。

○那覇聖書研究会

10月19日、那覇市安謝の瓊瑠にて木村護郎クリスチフ氏から「救いを必要とするのは誰か」についてお話をうかがいました。参加者17名（友寄隆静）

定期集会・地域別特別集会等案内

●キリスト教独立伝道会

○冬期聖書集会

日時：2026年1月10日（土）14:00～11日（日）13:30

会場：徳島聖書キリスト集会所、オンライン（グーグルミート）併用

テーマ：「静かなる細き声」

講師：吉村孝雄（徳島聖書キリスト集会代表）

数名による講話 リレー型読書会：「預言者エリヤについて」

お祈りの会（小グループに分かれて）

申込先 小館知子

郵送：〒156-0052 東京都世田谷区経堂5-3-12

Fax：03-3429-0220

●山形

○山形聖書集会 代表 白崎良二（023-625-4113）

聖日集会は原則毎月第2・第4日曜、10～12時

夏期・冬期（8月・1～3月）は休会

会場：遊学館、山形テルサ、文翔館

聖書講話：会員順番に担当

○米沢聖書集会

日時：毎月奇数日曜日、10時～12時半

場所：会員の個人宅（米沢市内）

聖書講義：助川暢（基督教独立学園高等学校元校長）

連絡先：富樫徹

●茨城

○水戸無教会聖書集会

月例集会 10:30～12:00

第2日曜（預言書を学ぶ 安昌美）

第4日曜（ヨハネ黙示録 菊池信生）

12月第3日曜はクリスマスの会として、午前中は松本智昌さんの講演と、昼食後は午後3時まで感話会をもちます。このため第4日曜（12月28日）は休会。

会場：南町コミュニティホール 参加費300円

バス停「南町2丁目」下車、徒歩3分

連絡先：星野光利

●栃木

○とちぎ聖書研究会

代表者村松梅太郎氏のご逝去にともない、研究会は終了いたしました。

●千葉

○千葉聖書集会

① 毎月第3日曜日は午前10時～12時

千葉市生涯学習センターで主日礼拝。新約聖書を学ぶ。

② 毎月第1日曜日 午後1時～3時半（1月は休会）会員の私宅で旧約聖書を讀んでいます。

連絡先：広瀬敏行

○逆井（さかさい）聖書集会

毎月第2土曜日 午前10:15～11:45

その後全員参加の談話会12:30頃まで。

会場：松戸友の会友の家（2026年3月より耐震改築工事のため当分の間Zoom集会となります）

隔月ごとにエレミヤ書、ヨハネ福音書を学んでいます。

連絡先：西永頌

●東京

○高円寺東教会

礼拝：第2と第4日曜日の11時から1時頃まで。「ガラテヤ書」（元高円寺東教会牧師小西芳之助）、または「黙示録」（石館守三）の講解説教録音テープを聞いて礼拝。

昼食を共にします。参加費1,000円

会場：今井館第1集会室（ズーム併用）

連絡先：山口周三

○無教会自由が丘集会

毎月第3日曜日、10時～12時、対面とオンラインのハイブリッド、メール配信にて開催しております。

2025年度は「創世記」を学んでいます。

場所：成城ホール会議室（成城学園前駅）、もしくは「多目的貸しスペース中根クラブ」（都立大学駅）

連絡先：西村敏樹

○『塚本虎二著作集』読書会

毎月第1水曜日10時半から、今井館第1集会室で、「塚本虎二著作集」第7巻（聖書知識社）を輪読。12月は214講、以下1講ずつ。

連絡先：山田光子

○「二周会」読書会

毎月第3金曜日午後1時から3時まで

今井館第1集会室

白井きく『ブルトマンと共に読むヨハネ福音書』

（上）（中）（下）

読書会の方法は、当番制で学び合う。

11月は（上）のC「命のパン（6・27～59）」の予定

現在の会員数は4名

連絡先：神谷光子

○駒込キリスト聖書集会 主宰：荒井克浩

聖日礼拝：毎週日曜聖日10時～12時

場所：今井館 第2・3集会室 ※遠隔の方Zoom参加可

聖書講話：「マタイによる福音書」の連続講解

（お願い）今井館の入り口はセキュリティがかかって

いるので9時30分以降に入口脇インターフォンで

「203」「呼び出し」を押してください。

連絡先：荒井

HP：集会名で検索可

○国立（くにたち）聖書研究会 Zoomによる集会

毎月第4日曜日 10時半～12時。使徒行伝（新約）といザヤ書（旧約）を交互に読んでいます。レポートは有志数名が交代で担当、毎回全員が感話を述べます。出席者は平均12名程度。

連絡先：加納孝代

○無教会新宿集会

毎週日曜日午前10:00～11:45

原則として旧約聖書と新約聖書を交互に学んでいます。

会場：家庭クラブ会館（渋谷区代々木3-20-6）

JR新宿駅南口より徒歩7～8分

連絡先：島 創平

●神奈川

○キリスト教横浜集会

主のお導きのもと、会場は関内の「技能文化会館」又は南太田の「フォーラム南太田」にて、午前10時から日曜礼拝を開催致しております。安川文朗兄には月一度、Zoomによる聖書講話をお願ひ致しております。20名弱の少人数でございますが、今後も集会を守って参ります。

須川真明

●山梨

○南アルプス聖書集会

山梨県南アルプス市小笠原255

代表：加茂悦爾

第2、第4日曜日 10時半～

旧約聖書：歴代誌

新約聖書：ルカによる福音書

●新潟

○新潟聖書研究会

日曜礼拝は対面（新潟市西区小針駅前の葡萄の家）とZoom併用のハイブリッドで、毎日曜日午前10時から12時に行っています。第1日曜日はホセア書、第2・3・4日曜日はヨハネ黙示録を学んでいます。熊本、静岡、石川県からの参加もあります。参加希望の方は代表の二七教会までご連絡下さい。27kyoukai@gmail.com（大西洋司）

●北陸

○金沢畠田聖書集会

毎月第1、第3日曜日 10:30～12:00

第1は使徒言行録を山下が、第3は崎村恒夫・広村暁が交代で担当し、聖書のメッセージを取り次ぎます。

会場：金沢勤労者プラザ 金沢市北安江3-2-20

連絡・問合せ先：山下士郎

●静岡

○清水聖書集会

主日礼拝：毎日曜日 10時～11時半

第2週：講話・小田弘平（元愛真高校教師）

第4週：講話・濱田淳（調理師）

第1,3,5週：講話・西澤正文（集会代表）

※第5週：感話会・会食

会場：マークス・ザ・タワー1905

清水駅西口より徒歩3分 静岡市清水区辻 1-2-1-1905

連絡先：西澤正文

○浜松聖書集会

日時：第3日曜を除いた日曜日 10～12時

会場：クリエート浜松 22号室など

連絡先：武井陽一

●中京

○名古屋聖書研究会

毎日曜日 10時～11時半 但し第5日曜日は休み

会場：名古屋市市政資料館

連絡先：三浦繁則

○名古屋聖書集会

毎月第2、第4日曜日 10時～12時

会場：名古屋市千種区猫通2丁目8番地の15

ビレッヂ猫ヶ洞13号

連絡先：下澤悦夫（共同世話人）

●近畿

○236回関西合同聖書集会

日時 2026年2月11日（水・休）司会 内坂晃

講師 北雅夫「本田哲郎神父のキリスト教」

津崎哲雄・使徒言行録第1回

午後 昼食 感話懇談会

○237回関西合同聖書集会

日時 2026年4月29日（水・休）司会 河野登

講師 田中晶善（あきよし）氏

「戦後教育改革に関わったキリスト者たち」（仮題）

内坂晃・使徒言行録第2回

午後 昼食 感話懇談会

問合先 上記二件とも津崎哲雄

○岡山聖書集会

礼拝（第二、第四日曜 10時30分～12時）（マタイ福音書を学んでいます）

場所：岡山禁酒会館 2階集会室（岡山市北区丸の内1-15）、希望があればオンラインでの集会参加も可能です。
代表者・連絡先 香西信

集会での聖書講話とキリスト教美術史の連載を掲載した『マラナ・タ』（月刊誌、現在133号）を発行しています。講読希望の方は私宛に連絡下さい。

●四国

○愛媛

日時：毎週日曜日 10:00～12:00

場所：松山市民会館

代表者：小笠原 明

○高知

日時：毎週日曜日 10:10～11:30

場所：高知県婦人会館 代表者：片岡典子

○徳島

① 徳島聖書キリスト集会主日礼拝 代表：吉村孝雄

日時：毎週日曜日 10:30～12:00（年中無休）

場所：徳島聖書キリスト集会場（徳島市南田宮1-1-47）

徳島市バス「東田宮」下車徒歩4分

集会所で対面と、オンライン（Google Meet）

「ヨハネの手紙第1」を読んでいます。

聴覚・視覚・知的障がい者の参加あり。手話あり。

② 徳島聖書キリスト集会夕拝 責任者：吉村孝雄

日時：毎月第1、第3火曜日 19:30から。詩編を読む。

上掲集会場で対面と、オンライン（Google Meet）

③ 天宝堂集会 責任者：綱野悦子

日時：毎月第2金曜日 20時～22時

場所：天宝堂治療院（徳島市応神町）

対面参加とオンライン（Google Meet）

④ 海陽集会 責任者：数度（すどう） 勝茂

日時：毎月第2火曜日 10時～12時

場所：讃美堂治療院（徳島県海部郡海陽町）

対面参加とオンライン（Google Meet）

⑤ 北島集会 責任者：戸川恭子

日時：毎月第2、第4月曜日 13時～15時

場所：徳島県板野郡北島町

対面参加とオンライン（Google Meet）

●九州

○福岡聖書研究会・定例集会

礼拝：毎週日曜日 10～12時

会場：アクロス福岡（福岡市中央区天神1-1）

ほか（約15名）、Zoom同時配信（約15名）

連絡先：秀村弦一郎

○天拝聖書集会

天神聖書集会は副島浩氏宅での家庭集会「天拝会」

として再出発しました。

○別府聖書研究会・定例集会

礼拝：毎週日曜日 10～12時

会場：北的ヶ浜公民館（別府市北的ヶ浜町3-35）

連絡先：中村陽一

○別府聖書研究会・クリスマス会

日時：12月21日（日）10時～15時

講師：梅木龍男氏、中村陽一氏（演題未定）

会場：北的ヶ浜公民館（別府市北的ヶ浜町5-35）

連絡先：中村陽一

○那覇聖書研究会

毎月第1と第3日曜日 10:15～13:00に集会をしてい

ます。会場：那覇市安謝の瓊瑤。

連絡先：友寄隆静

事務局便り

♪♪今井館クリスマスコンサート♪♪

今年も12月25日（木）14時から「～ピアノ・トリオと素敵なクリスマスを～」と題して、今井館でクリスマスコンサートを開催します。好評のなか、今年で第3回目を迎えます。トリオはヴァイオリン：志村寿一さん、チェロ：懸田貴嗣さん、ピアノ：廣田響子さんです。チャイコフスキイの「くるみ割り人形」など、楽しい曲もたくさん！ 今回は今井館副理事長の川中子義勝氏が描いた絵本『ふゆごもり』の朗読とスライド上映もあります。慌ただしい年末にほっとするひと時を過ごしませんか。皆で讃美歌も歌います。参加される方は必ず事前に電話（03-6277-5669）またはメール（room@imaikankyouyukai.or.jp）で、申込みをしてください。

（一般：2,000円、学生：500円、未就学児：無料）

（三上由美子）♪♪

『キリスト教年鑑』を刊行しているキリスト新聞社から、このたび同年鑑の「2025-2026年版」に掲載する「今井館教友会」についての記述のアップデートを依頼されました。今井館教友会役員（相談役、顧問、現理事など）数名で検討し、従来の文言を少々修正する形で新しい原稿を作りました。「無教会」についての完璧な定義や説明を書くことは困難ですが、大まかな無教会の「自己紹介」という性格の文章は、自分にとっても、ほかの人との対話の出発点としても、有益ではないかと思います。以下ご参考に供します。

（加納孝代）

無教会グループ 沿革=独立伝道者内村鑑三（1861-1930）によって創始されたグループ。定式化された儀式、礼拝様式、信条、規則、職業的聖職者や会堂などを持たず、外的な制度・組織などに縛られない。言葉（ロゴス）と靈を等しく重視し、聖書の真理を追究する。内村の独立した個性的信仰は当時の青年学徒たちに強い影響を与え、浅野猶三郎、畔上賢造、塚本虎二、黒崎幸吉、藤井武、三谷隆正、南原繁、金澤常雄、矢内原忠雄、石原兵永、鈴木彌美、政池仁、関根正雄、高橋三郎らによって継承された。現在各地で三代目、四代目、さらにその次の人々によって、平信徒による旧新約聖書の講解と、会員の日常の経験に基づく感話を中心とする礼拝が持たれている。正確な集会数や会員数の把握は困難だが、日本プロテスタント内にかなりの影響力を与えているであろう。なお今井館教友会は各個集会を統括する本部ではなく、今井館聖書講堂および今井館資料館の管理運営と資料整備に当たり、無教会の情報を無教会の内外に提供するサービス機関である。

とちぎ聖書研究会代表の村松梅太郎さんが今年5月に帰天されたとのお知らせを頂きました。
ご遺族にイエス・キリストによる慰めがありますように祈ります。 （加納孝代）

維持会員募集のお知らせ

NPO 法人今井館教友会では会の趣旨にご賛同の方の入会を随時受け付けております。今井館教友会は、維持会員の会費と寄付金によって運営されております。内村鑑三および彼に連なる人々の遺したものを通じ世のために役立つ事を願いつつ鋭意努力を重ねています。2021年今井館は文京区本駒込へ移転し、財政的にはより安定化しましたが、なおも皆さまのご支援を必要としており、経済的・精神的なお支えを願うものです。この『今井館ニュース』は会員でない方にもお送りしておりますが、ご覧になって本会の活動にご賛同の方にはぜひ維持会員にお加わり頂きたくお願ひ申し上げます。

もしも、『今井館ニュース』をご必要ないようでしたら、お手数ですがお知らせください。

■会員の特典

1. 今井館資料館の図書・雑誌の貸出サービスをご利用いただけます。
(1)宅配便業者との提携による「メール便」利用しています（ただし送料は利用者負担でお願いします）。
(2)蔵書の検索につきましては今井館教友会のホームページの「図書検索」をご利用ください。
(3)雑誌・図書の一部をコピーしてお送りするサービスにも応じております。
(4)詳細は事務局にお問い合わせください。
2. 『今井館ニュース』(年3回発行) の受領。

■会費

次の2通りを準備しています。

1. 会員のゆうちょ銀行口座より毎月27日に自動的に振り込んでいただく方法。
X会員 1,500円 (月額) (年額1万8千円)
Y会員 2,000円 (月額) (年額2万4千円)
Z会員 3,000円 (月額) (年額3万6千円)
T会員 任 意 (月額)
※ゆうちょ銀行の口座をお持ちでない方は口座をお作り頂く必要があります。事務局より必要書類一式をお送りしますので、ご連絡をお願いいたします。
2. ゆうちょ銀行の振込による年1回納入
A会員 年会費 1万円、B会員 年会費 5千円、S会員 年会費 任意

■お申し込み

事務局にご連絡をお願いいたします。申込書（ハガキ）をお送りしますのでご記入の上ご返送ください。

- ・本号のイラストは、2頁のホトトギス、20頁の少年クワイア、ともに、秀村弦一郎さんの作品です。



「今井館ニュース」第63号 2025年11月30日

（年3回発行 4月、7月、11月）

発行人：特定非営利活動法人今井館教友会

理事長 加納孝代、副理事長 川中子義勝

編集人：志知道子、玉井慎一、矢田部千佳子、
山下明

〒113-0021 東京都文京区本駒込 6-11-15

Tel&Fax : 03-6277-5669

メールアドレス 304kyoyu@imaikankyooyukai.or.jp

ホームページ <http://www.imaikankyooyukai.or.jp>

郵便振替口座 00170-2-83102

加入者名 特定非営利活動法人今井館教友会

編集後記

今号は、星野さんの巻頭言を始めに、草薙さんと大川さんが関東地方の集会についてご紹介下さった。内村鑑三の曾孫に当たる大川さんは桐生集会の誕生から今日までの歴史をお書きくださり、草薙さんは、逆井集会のダンテ神曲勉強会がフィレンツェまで飛び、ダンテの信仰を実感された様子が伝わります。また、2日開催に戻った全国集会では、若い世代の瑞々しい感性に教えられ、リードオルガンの柔らかな音色に包まれました。私たちに繋がる高等学校は豊かな自然の恵みの中にあります。今、その自然が発する警告を受けとめながら、共生を祈りつつ、皆さんのが今年もまた、美しく、温かいクリスマスを迎えられますように、編集者一同お祈りしています。

(C.Y.)